

【第10号】

## タイの駐在環境について（1）



（タイの様子）

ビジネスを展開する上で、重要なのは「人」です。日本からの優秀な人材が駐在してくれるかどうかポイントになります。タイは日系企業が多い地域であり、駐在環境は優れています。今回はこの駐在環境について書きたいと思います。

## 【タイはアジアで最も駐在しやすい国の一つ】

タイは東南アジアの中でもプラザ合意の1985年以降から日本企業の進出の多い国で、製造業を中心とした日系企業の進出もあり、バンコクを中心に発展を遂げ、高架鉄道、地下鉄、高層ビルが建ち並ぶ、世界中からビジネスパーソンが集まる国際都市へ変貌しました。タイ全土には約2,800店の日本食店が並ぶほか、約5,400社（2017年JETROバンコク事務所調べ）の大手、中堅・中小の日系企業が進出している世界でも類を見ない親日国です。

在留邦人数も年々増加傾向にあり、駐タイ日本大使館領事部への在留届出ベースで7万人を超え、企業から

の長期出張者などの未登録者も含めると約10万人の日本人がバンコクを中心とした都市で活動していると見込まれています。

タイ人の性格から考察してみると、基本的な考え方は“去る者は追わず来る者は拒まず”の精神があり、タイ人は去って行こうとしている人を引き止めることなく、又、自分のことを信じて頼ってくる人は、どんな人でも受け入れる。というところがあり、どこか日本人を魅了する何かがあるようです。

## 【生活に必要な“衣食住”】

## ①タイの衣料品事情

タイは熱帯の国であることから、Tシャツなどの薄手の衣料品が多くなると思いますが、多くの衣料品は質を問わなければ安く入手できます。バンコクであれば、ZARAやH&Mのファストファッションや日本のUNIQLOも進出しており、簡単に買うことができますので普段着については概ね問題ないと思います。ビジネスマンにつきもののスーツは、タイでも着用することがありますので販売もしていますし、ちょっとしたコ

（次ページへ続く）

J-GoodTechは、日本の中小企業と、国内外の企業とをつなぐビジネスマッチングサイトです。

国内外での技術提携や販売提携など、幅広く事業展開を目指す企業の方は、ぜひご登録ください。



登録・掲載のお申し込みは  
WEBから「ジエグテック」で検索してください

【第10号】

## タイの駐在環境について（1）

ツは必要ですが、安価でのオーダーも可能です。なお、スーツを着用するのは、もちろん冷房が（強すぎるくらい）効いたオフィスがメインです。

バンコクでは伊勢丹や東急百貨店などもありますので、ある程度日本の商品の入手も可能です。このように基本的には不自由はないと思います。必要であればインターネット通販や一時帰国を利用すれば大丈夫だと考えられます。

## 【タイの食文化】

タイと聞くと辛い、唐辛子が効いたタイ料理を想像すると思いますが、タイ人は子供には辛い料理を食べさせることはありませんし、辛いものが苦手な人もいます。また、パクチーだらけということもありませんので、辛い物やパクチーが苦手でも大丈夫です。

タイは食文化として外食が中心となっており、屋台などで40～60バーツ（約130～200円）出せば美味しい食事ができます。

最近ではバンコクを中心として競争が激しく、街中でタイ料理以外のレストラン、ファストフードなど選択肢が増えていきます。日本食もブームで日系のレストランも増えていきます。あと10年ほど経つとタイ人も日本人のような味覚になるのではないかと感じるほど、日本食というのがもっともタイ人には根付いた料理ともいえると思います。

最近ではタイ人の方に話を聞く機会があり、人気があるのが「煮る、揚げる、炒める食べ物」になります。揚げて煮るだと「カツ煮」「天とじ」とか、揚げて炒めた料理がタイ人に好まれることとなります。

何故か？この10年でカツのお店が増えた気がします。このように外食文化が充実しているので、単身で駐在しても問題ないと思います。

また、食材についても日系のスーパーなどで日本のものを入手することも可能です。このように“食”の面は充実しているといえるでしょう。

J-GoodTechは、日本の中小企業と、国内外の企業とをつなぐビジネスマッチングサイトです。

国内外での技術提携や販売提携など、幅広く事業展開を目指す企業の方は、ぜひご登録ください。



登録・掲載のお申し込みは  
WEBから「ジエグテック」で検索してください